

1 解答例

[1]

問1 $\rho V g$

問2 $M > \mu m + \rho V$

問3 物体の運動方程式： $ma = T - \mu' mg$

おもりの運動方程式： $Ma = Mg - \rho V g - T$

問4 $a = \frac{g(M - \rho V - \mu' m)}{m + M}$
 $T = \frac{mg(M - \rho V + \mu' M)}{m + M}$

問5 $-\mu' mgL$

問6 物体が点Pに到達したときの物体とおもりの速さを v とすると、等加速度直線運動であることから、

$$v^2 - 0 = 2aL$$

問4の結果から、

$$v^2 = \frac{2Lg(M - \rho V - \mu' m)}{m + M}$$

ゆえに、運動エネルギーの和は、

$$\frac{1}{2}(m + M)v^2 = Lg(M - \rho V - \mu' m)$$

(2)

問1

$$\begin{aligned} \text{水平方向} \quad T \sin \alpha &= N \cos \theta \\ \text{鉛直方向} \quad T \cos \alpha + N \sin \theta &= mg \end{aligned}$$

問2

$$\begin{aligned} T &= \frac{\cos \theta}{\cos(\theta - \alpha)} mg \\ N &= \frac{\sin \alpha}{\cos(\theta - \alpha)} mg \end{aligned} \tag{1}$$

問3 半円柱が水平面から受ける摩擦力の大きさを f とおくと,

$$f = \frac{\sin \alpha \cos \theta}{\cos(\theta - \alpha)} mg \tag{2}$$

問4 半円柱が水平面から受ける垂直抗力の大きさを N' とおくと, 力のつり合いの式より,

$$N' = N \sin \theta + Mg \tag{3}$$

$f = \mu N'$ になるときが最大摩擦力なので

$$\mu N' \geq f$$

これと, 式(1), 式(2), 式(3)より

$$\mu \geq \frac{f}{N'} = \frac{\frac{\sin \alpha \cos \theta}{\cos(\theta - \alpha)} mg}{\frac{\sin \alpha \sin \theta}{\cos(\theta - \alpha)} mg + Mg} = \frac{m \sin \alpha \cos \theta}{m \sin \alpha \sin \theta + M \cos(\theta - \alpha)}$$

2 解答例

(1)

問1

$$\frac{3V}{5}$$

問2

$$\left(\frac{3}{5} - \frac{d}{L}\right) CV$$

問3

$$d_0 = \frac{3}{5}L$$

問4 EF間の合成抵抗の値は $5R$ 、AB間の抵抗値は R なので、回路全体の抵抗値は

$$\frac{1}{\frac{1}{5R} + \frac{1}{R}} = \frac{5R}{6} \quad \text{であるので} \quad \frac{6V^2}{5R}$$

問5 コンデンサーの両端の電位差を V' 、EG間に流れる電流の大きさを I_{EG} 、GF間に流れる電流の大きさを I_{GF} とすると $V' = (3R + \frac{d_1 R}{L}) I_{EG} = (2R + \frac{(L - d_1) R}{L}) I_{GF}$ を得る。

$$\text{これより, } \frac{I_{EG}}{I_{GF}} = \frac{3L - d_1}{3L + d_1} = \frac{4}{5} \quad \text{となるので, これを} d_1 \text{ について解けば } d_1 = \frac{L}{3}$$

問6 回路全体で発生したジュール熱はコンデンサーに蓄えられた静電エネルギーと等しく、それ

$$\text{は問2から } \frac{1}{2} \left(\frac{3}{5} - \frac{d_1}{L}\right)^2 CV^2 \quad \text{である。} \quad d_1 = \frac{L}{3} \quad \text{を代入すると} \quad \frac{8}{225} CV^2$$

[2]

問1 磁場の大きさは $\frac{I}{2\pi a}$, 磁場の向きは③

問2 力の大きさは $\frac{\mu_0 I^2 b}{4\pi a}$, 力の向きは①

問3 導線 C の座標を $(c, 0)$ とおく。導線 A からの力とつり合うためには, $c > -a$ である。導線

C と導線 A の電流が導線 B に及ぼす力の大きさが等しいので,

$$\frac{3\mu_0 I^2 b}{2\pi(c+a)} = \frac{\mu_0 I^2 b}{4\pi a}$$

これを解くと $c = 5a$

よって導線 C が置かれた位置の x 座標は, $x = 5a$

問4 全ての導線の電流について, x 軸上に作る磁場は y 軸に平行になる。

x 軸上の点 $(x, 0)$ での磁場 $H(x)$ の y 成分は, それぞれの電流の作る磁場の和となる。

$$H(x) = \frac{-I}{2\pi(x+a)} + \frac{-I}{2\pi(x-a)} + \frac{3I}{2\pi(x-5a)}$$

これが 0 になるので,

$$x^2 + 10ax - 3a^2 = 0$$

これを解くと

$$x = (-5 \pm 2\sqrt{7})a$$

となる。

よって x 軸上で磁場が 0 になる点の x 座標は

$$x = (-5 + 2\sqrt{7})a \text{ と } x = (-5 - 2\sqrt{7})a$$

3 解答例

(1)

問1 力のつり合いより

$$p_1 S = p_0 S + Mg \quad \therefore p_1 = p_0 + \frac{Mg}{S}$$

問2 状態方程式より

$$p_1 S \ell = nRT_1 \quad \therefore T_1 = \frac{p_1 S \ell}{nR} = \frac{(p_0 S + Mg) \ell}{nR}$$

問3 状態 I と状態 II についてボイル・シャルルの法則より

$$\frac{p_1 S \ell}{T_1} = \frac{p_1 \times 2S \ell}{T_2} \quad \therefore T_2 = 2T_1 = \frac{2(p_0 S + Mg) \ell}{nR}$$

問4 体積の変化量を ΔV とすると

$$W = p_1 \Delta V = \left(p_0 + \frac{Mg}{S} \right) S(2\ell - \ell) = (p_0 S + Mg) \ell$$

問5 温度の変化量を ΔT とすると、定圧変化より、定圧モル比熱 $\frac{5}{2}R$ を用いて

$$Q = n \left(\frac{5}{2}R \right) \Delta T = n \left(\frac{5}{2}R \right) (T_2 - T_1) = \frac{5}{2}(p_0 S + Mg) \ell$$

3 [2] 解答例

問 1

$$\begin{aligned}
 L_2 - L_1 &= \left[L^2 + \left(x + \frac{d}{2} \right)^2 \right]^{\frac{1}{2}} - \left[L^2 + \left(x - \frac{d}{2} \right)^2 \right]^{\frac{1}{2}} \\
 &= L \left[1 + \left(\frac{x + d/2}{L} \right)^2 \right]^{\frac{1}{2}} - L \left[1 + \left(\frac{x - d/2}{L} \right)^2 \right]^{\frac{1}{2}} \\
 &\approx L \left[1 + \frac{1}{2} \left(\frac{x + d/2}{L} \right)^2 \right] - L \left[1 + \frac{1}{2} \left(\frac{x - d/2}{L} \right)^2 \right], \left(\because x + \frac{d}{2}, x - \frac{d}{2} \ll L \right) \\
 &= \frac{dx}{L}
 \end{aligned}$$

問 2

$$\frac{dx}{L} = m\lambda$$

問 3

$$\Delta x = \frac{\lambda L}{d}$$

問 4 薄膜の屈折率により S_1 側の光路長が増加する。点 O にあった明線は光路長の差が 0 であるため、 S_2 側の光路長を伸ばす向き、すなわち点 O から紙面上向きに移動する。

問 5

$$\frac{(d + vt)x}{L} = m\lambda \quad \text{より} \quad x = \frac{m\lambda L}{d + vt}$$

上式から時刻 $t = 0$ における 3 番目の明線位置は $x = \frac{3\lambda L}{d}$ であり、明線の位置は時間経過とともに点 O に近づくことがわかる。よって、時刻 t に位置 x が再び明るくなったのは、4 番目の明線の到達を示しており、次式から時刻が求められる。

$$\frac{3\lambda L}{d} = \frac{4\lambda L}{d + vt} \quad \text{より} \quad t = \frac{d}{3v}$$